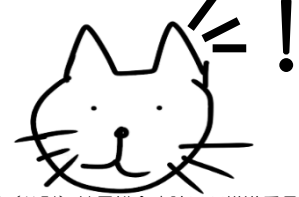


第28回 MQI活動

2023年度MQI統一主題
 活気ある次世代を担う病院への改革
 ～理想実現のための職場作り～

継続フォローの会・3年目フォローの会
 理事長・院長MQI推進委員会委員長 柳川 達生

みみより
 MQI



発行（公財）練馬総合病院MQI推進委員会
 〒176-8530 練馬区旭丘1-24-1
 TEL03-5988-2200（代）



MQIで構築した新たな業務の仕組みを継続することが不可欠です。そのためには、歯止めと標準化が極めて重要です。適切な部署に業務を引き継ぐことが肝要ですが、業務を引き継いだとしても、機能しないままになってしまうリスクがあります。継続できなかった理由は、改善が最適でなかったことや、改善策は優れていても職員への周知や教育が不十分だったことなどが挙げられます。継続フォローの会はPDCAサイクルを回し、成果を持続し、さらに発展させることを目指しています。多くの労力を費やして構築した仕組みを継続し、さらに向上させていきましょう。

2023年度 MQI継続フォローの会 (2.5開催)

MQI推進委員会では、MQIの成果が継続できるように、フォローの会を開催し、活動をフォローしています。

	現在の状況及び今後の活動について	推進委員からのコメント
<p>★薬剤科</p> <p>『多職種で関わるFLSの体制を整える』</p>	<p>MQI発表大会後、活動が滞っていた部分がありましたが、フォローの会で各部署で再度運用を見直し、FLSの活動を継続しています。当院患者の二次骨折を防ぐため引き続きFLSチームで活動していきたいと考えています。ご協力お願いします。</p>	<p>今回の活動で、各職種の役割を明確にするために、フローを作成したと思います。そのフローの継続が難しいようであれば、その都度、修正をしていきましょう。FLSチームの活動を継続することが大切です。</p>
<p>★看護部</p> <p>『夜間、震度5以上の地震発生時、職員が安全に初期対応を行うことが出来る』</p>	<p>現在「防災訓練の動画」を編集しており、次年度の新入職者と今後の中途入職者を対象に、防災委員会と協力し配信する予定です。また、夜間勤務の無い部署を含めた全ての部署のアクションカードを作成したため、今後設置します。</p>	<p>今回の活動で作成したアクションカードの周知と、防災訓練の継続が重要となります。防災委員会との連携を図り、スムーズに引継ぎを実施していくためにサポートしていきたいと思います。</p>
<p>★放射線科</p> <p>『画像データ出力の運用を見直す』</p>	<p>現在、更に画像データ出力業務を円滑にするため、依頼用紙をファイリングし、カルテ上からも過去の依頼状況を確認出来るようにすることを検討中です。引き続き、関係部署の皆様ご協力よろしくお願いします。</p>	<p>今回の活動で画像データ出力業務を円滑にすることができたと思います。それにとどまらず、継続や見直しを実施するためにサポートしていきたいと思います。</p>
<p>★医事課</p> <p>『受付業務を整理し初診患者を速やかに診療科へ案内する』</p>	<p>MQI発表大会後、新人指導やブロック受付増設などで電話対応専任職員が配置できていない現状を報告しました。そして、今後、対策実施できていない項目をどうするかについて、具体的なアドバイスを頂きました。頂いたご意見を今後活かして参ります。</p>	<p>本活動で、患者さんの受付待ち時間を短縮するにはどうすればいいか医事課職員全員が考える良い機会となりました。活動後も分析を続け、速やかに診療科へ案内する流れを検討していきます。</p>
<p>★当院改善事例</p> <p>『無痛分娩プロジェクト』</p>	<p>発表大会後、無痛分娩の症例数は増えていませんが、2024年4月より無痛分娩の枠を増設し、以前より予約数は増えています。妊婦さんの声に応えるため、活動を継続していきます。</p>	<p>妊婦さんのニーズに応じて実績を重ね、ホームページに無痛分娩実施施設として掲載できるように活動の継続をお願いします。</p>

2020年度MQI 3年目継続フォローの会（2024.1.15、1.22開催）

3年目継続フォローの会開催について

MQI活動は、その年度のMQIチームが解散した後、活動の成果や活動で作成した業務手順が普段の業務の中に定着し、さらに発展していくことが理想です。3年目フォローの会は、活動報告書を作成した時の「歯止め・標準化」や「今後の課題」とした内容が、現在どうなっているかを再確認し、課題が解決できないままであれば、さらに検討する機会になります。新入職員の皆さまにも、ぜひ、以前の活動を知ってもらいたいと考えます。医療を取り巻く環境の変化に合わせてPDCAを回し、さらに医療の質を向上させるべく、活動を発展させましょう。

	発表時の「歯止め・今後の課題」のその後について	推進委員からのコメント
<p>◆看護部</p> <p>『退院支援に必要な情報を多職種で共有する仕組みを再構築する』</p>	<ul style="list-style-type: none"> MQI活動後、退院支援管理表2020を全病棟で活用ながらカンファレンスを実施している。 当初は医師の記入欄が未記入であることが散見されたが現在は内科・外科医師の記入もされており退院支援状況を退院支援管理表2020で確認できるため、退院支援の情報を1枚に集約し、退院支援状況を把握することができている。 今年度から退院支援リンクナースの配置が決定しているため今後も活用していく。 	<p>現在、退院支援管理表2020を活用したカンファレンスが全病棟で実施されており、しっかりと活動の結果が定着してきていると思います。新年度退院支援部署の新設に伴い、また新たな仕組みが構築されていくと思いますが、現在あるものをさらにより良い物へと発展させていけるよう、協力していきたいです。</p>
<p>◆検査科</p> <p>『病棟や救急カートにある検体採取容器を管理する仕組みを作る』</p>	<ul style="list-style-type: none"> MQI活動後、発熱外来、旭丘診療所の検体採取容器管理も実施した 現在は、病棟、救急カート、診療所の採取容器を定数管理しており、使用期限の管理も継続している 病棟は毎週末（木、金）に交換実施しているが、救急カートは、設置場所も多く、毎月交換が困難になったため、現在は、容器の使用期限を把握したうえで2 - 3ヶ月毎に交換している 容器の定数や種類などは現場の意見を反映させ変更しており、検査科での容器管理について、「問題がある!」、「管理不十分!」といった意見は聞かれていない 	<p>本活動を通じて、必要な場所に必要な種類と数の検体採取容器を揃える事ができ、期限切れの容器が置かれる事が無くなった事で、現場で容器が無くて困ることが減り、検査科からは常により正しい検査結果を臨床へ報告できるようになりました。</p> <p>容器の種類や数、交換頻度などの適宜見直しや、新たに設置場所ができた場合も、もれなく容器を設置、管理が出来ており、より良い形で継続できています。</p>
<p>◆内視鏡センター</p> <p>『内視鏡検査増加に伴う業務の見直し』</p>	<ul style="list-style-type: none"> MQI活動後、内視鏡マニュアルを用いて新入職者に説明し、問診票の確認作業は必要事項のみ行うようになった。 上部消化管内視鏡検査では鎮痙剤は基本的に使用せず、鎮痛鎮静剤の選択はバチジンを選択にすることにより、検査準備にかかる時間は短縮できている。 細径スコープの本数が増えたこと、職員が増員したことで、スコープの準備が円滑に行えるようになり、検査が中断することは少なくなった。 検査の3列稼働が可能となり検査にかかる時間をさらに短縮し、更なる検査件数の増加が期待できると思われる。 	<p>歯止めの新入職者への検査準備の教育を継続して、鎮痙剤のルールも定着しています。活動終了時には今後の課題としていたスコープの問題にも継続して取り組み、問題を解決し活動の発展が見られています。今後、さらなる内視鏡の件数増加にも無理なく対応できる体制の継続をお願いします。</p>
<p>◆医事課・医療情報管理室</p> <p>『病名欄への病名登録を確実にする』</p>	<ul style="list-style-type: none"> 病名登録の重要性を理解してもらい、に関しては新入職オリエンテーション時に説明しており、医師も自発的に登録してくれています。 未登録があった場合は、督促する活動を継続しており、先生方のご協力もあって年間の登録率は97%以上をキープしています。 課題としてあげた病名整理に関しては、2017年6月に診療記録監査プロジェクト主体で病名開始日が前年度までのもの（病名開始日が2016年3月末までのもの）を整理したことがあるので、当時の内容を参考に、診療科長会議等で医師に了承をもらった上で病名整理をしていく流れを検討しています。 	<p>本活動で取り決めた運用は継続できており、病名未登録が判明した際は速やかに医師に登録を依頼し高い登録率を維持できています。</p> <p>病名整理に関しては、保険請求上なくてはならないもの、削除したほうがよいものを医事課でも検討し、医師の了承を得た上で整理をすすめてまいります。</p>